



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 28 年新春号



新年のご挨拶



「BEING」

十和田市立中央病院
病院事業管理者 松野 正紀

むかし、恩師から教えられたことがあります。教えられたというよりは、外科医としての駆け出しの頃、身体に叩き込まれた教訓といった方が適当かもしれません。それがタイトルに上げた文言です。

「君達、医療の原点は何だかわかるかね。それは“being”だよ。つまり病んでいる人のそばに居ること、ただ付き添うだけじゃなくて、手を握ったり肌に触れたりしていることなんだ」。従って、一日に何回も病室に顔を出して、患者さんの様子を見たり手足に触れることが、容態の変化をいち早くキャッチすると同時に、患者さんの癒しにつながるということを徹底的に叩き込まれました。

医療技術の未発達な時代には、病人に対する癒しの行為そのものが医療だったことは容易に想像できますし、“being”が癒しを表す言葉であることも肯けます。

最近の医療は、各分野において先端という接頭語が付くような目覚ましい発展を遂げています。また、ドクターはじめ医療従事者は電カルの打ち込みや各種の書類作成に忙殺されています。従って、ゆっくりベッドサイドで患者さんと触れ合う時間をとることがなかなか難しくなってきました。しかしながら、そういう時代だからこそ、医療の原点であるこの“being”が重要になってくるのではないのでしょうか。中央病院の職員の皆さまの頭の隅に留めておいて欲しいと思っています。

以上、新年のあいさつと致します。今年も充実した年になりますように。

